



平成27年12月25日(金)

国土交通省
東日本高速道路株式会社

— 記者発表資料 —

10/31(土)に圏央道(桶川北本IC^{おけがわきたもと}～白岡菖蒲IC^{しらおかしょうぶ})が開通
圏央道により 湘南から東北 がつながりました

圏央道のストック効果※をお知らせします

～ 圏央道埼玉県区間 全線開通1ヶ月後 ～

※ ストック効果：整備された社会資本が機能することによって、継続的に中長期的に得られる効果。

＜主なストック効果＞

○都心の渋滞を避けて目的地へ

圏央道内側を通過していた[東名高速⇄東北道]の交通が9割⇒3割と大幅に減少
首都高速中央環状線経由の交通量 4,300台/日⇒2,300台/日に減少
交通量が減少した首都高速中央環状線(大橋JCT～江北JCT)の渋滞が約2割減少

○関東近郊の観光地がより身近に

鬼怒川温泉では台風の影響で宿泊客数が前年比5%減少したが神奈川県内からの
宿泊客数が2割増加したとの声

○沿線に立地する企業の生産性の向上に寄与

移動時間が短縮し、配送が効率化するため生産性の向上に繋がるとの期待
標準配送範囲が約1.2倍拡大(半径80km→100km)したとの声

○今回開通区間の交通量

圏央道(桶川加納IC^{おけがわかのう}～白岡菖蒲IC^{しらおかしょうぶ})：平均32,600台/日

さらに、東北道から常磐道が圏央道でつながります。
圏央道(境古河IC^{さかいにが}～つくば中央IC間) 平成28年度開通予定

効果① 都心の渋滞を避けて目的地へ

- 圏央道内側を通過していた[東名高速⇄東北道]の交通が9割⇒3割と大幅に減
- 中央環状線では交通量が約2%減少、渋滞が約2割減少
- 残る内側を通過する交通は新たな高速料金の適用で転換されることが期待される

【東名高速⇄東北道間の経路選択】

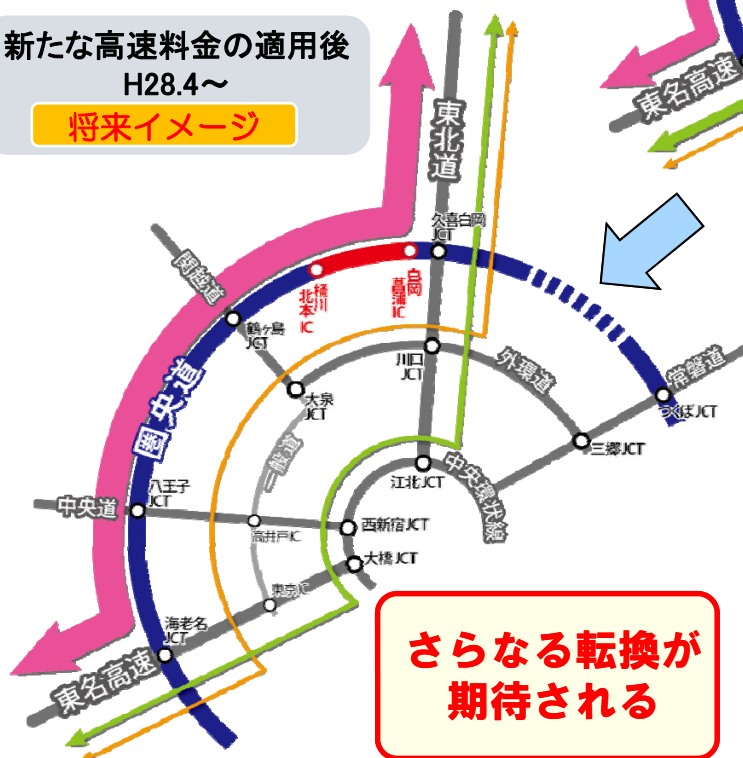
桶川北本IC～白岡菟蓐IC
開通前



出典)ETCログデータ
 <圏央道開通前:平成27年10月2～7日(平日)
 圏央道開通後:平成27年11月2～6日(平日)データ使用>

新たな高速料金の適用後
H28.4～

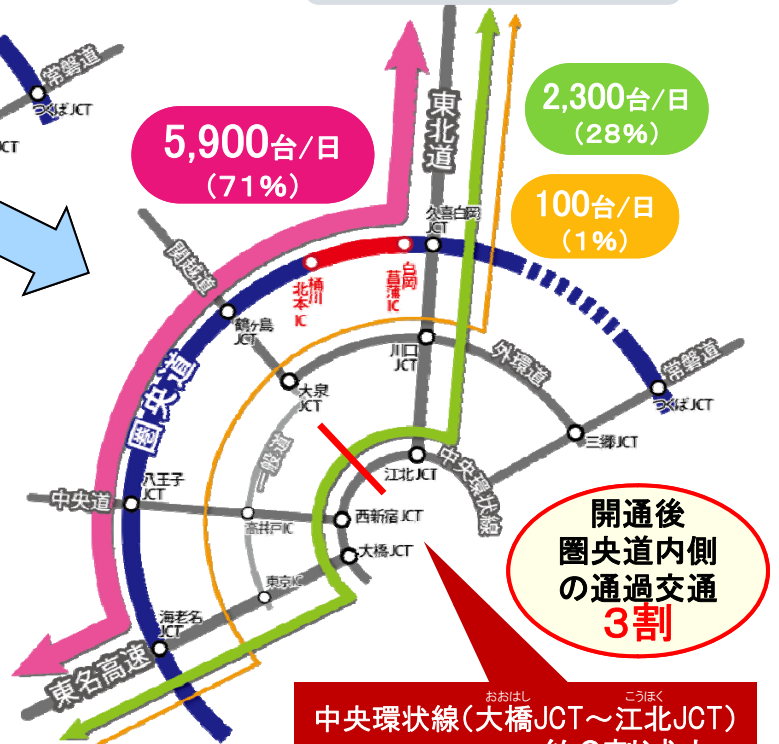
将来イメージ



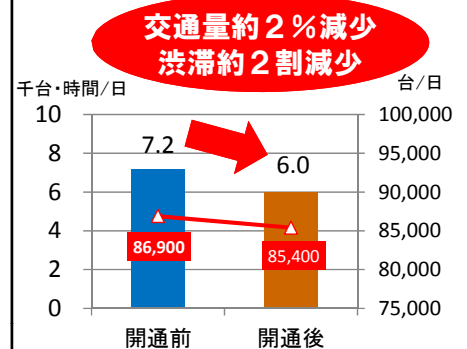
- ⇄ : 一般道を利用して圏央道内側を通過するルート
- ⇄ : 首都高を利用して圏央道内側を通過するルート
- ⇄ : 圏央道を通過するルート

圏央道内側の交通が
9割から3割に減少

桶川北本IC～白岡菟蓐IC
開通後



中央環状線(大橋JCT～江北JCT)
渋滞損失時間は約2割減少



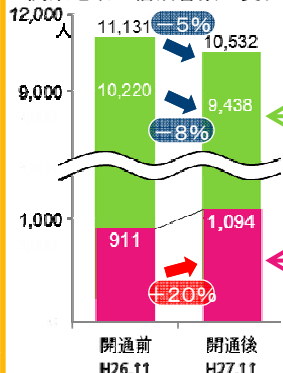
出典)首都高(株)トラカンデータ
 <損失時間>内回り外回り合計
 開通前:平成27年10月1日(木)～10月15日(木)
 開通後:平成27年11月1日(日)～11月15日(日)
 上記期間の平日の平均値
 <日交通量>西池袋～中野長者橋間
 開通前:平成27年10月1日(木)～10月30日(金)
 開通後:平成27年11月1日(日)～11月15日(日)
 上記期間の平日の日交通量の平均値

効果② 関東近郊の観光地がより身近に

- 圏央道埼玉県区間が開通し、関東近郊の観光地が活性化
- 鬼怒川温泉の旅館関係者からは神奈川県内からの宿泊客数が2割増加したという声
- 圏央道がさらにつながること、外国人観光客の増加に期待

【鬼怒川温泉 あさやホテル関係者の声】

関東地域の宿泊客数の変化



11月の宿泊者数は、9月の関東・東北豪雨の影響もあり、前年同月と比べると減少。

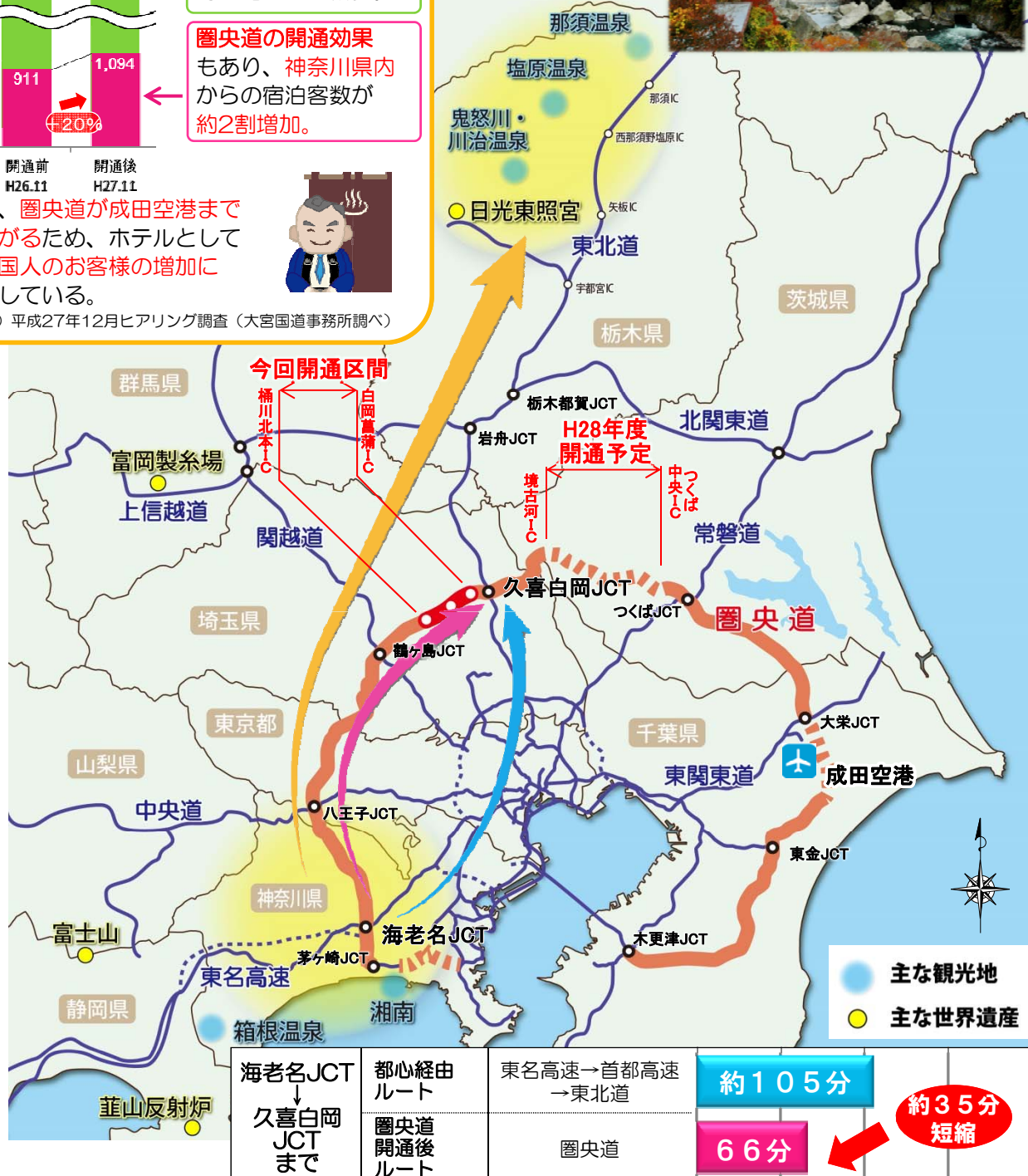
圏央道の開通効果もあり、神奈川県内からの宿泊客数が約2割増加。

今後、圏央道が成田空港までつながるため、ホテルとしても外国人のお客様の増加に期待している。

出典：平成27年12月ヒアリング調査（大宮国道事務所調べ）



鬼怒川



※都心経由ルート：H22センサス(混雑時旅行速度)による最短時間ルートの所要時間

圏央道開通後ルート：NEXCOデータによる朝のピーク時(7時～9時)の平均値 平成27年11月1日(日)～11月30日(月)

効果③

沿線に立地する企業の事業拡大・生産性向上に期待

- 圏央道で移動時間が短縮し、配送が効率化するため生産性の向上に繋がるとの期待
今回の開通で、標準配送範囲が約1.2倍拡大（半径80km→100km）したとの声

白岡菖蒲IC付近のYKK AP (株) 埼玉窓工場



操業：平成23年7月 建物面積：42,313m²
敷地面積：86,716m² 雇用者数（地元採用）：約150名

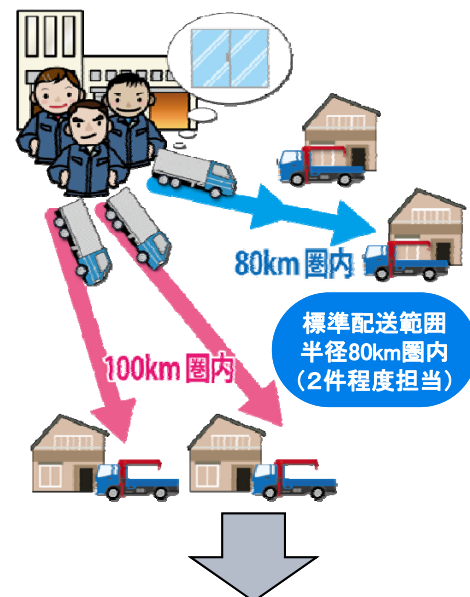
【YKK AP(株) 埼玉窓工場関係者の声】

○今回の開通で配送時間の短縮や配送エリアの拡大、配送回数の増加など生産性の向上が期待できます。1人のドライバーが1日で半径80km圏内の現場を2件程度担当していましたが、同じ条件で半径100kmに配送エリアを拡大することができました。

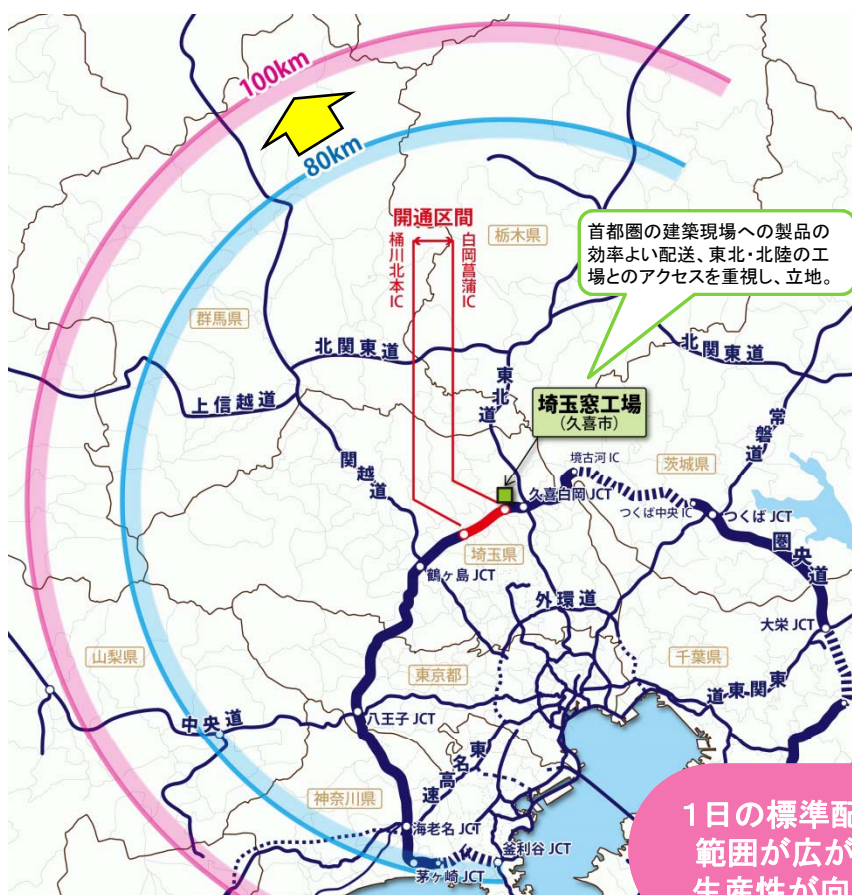
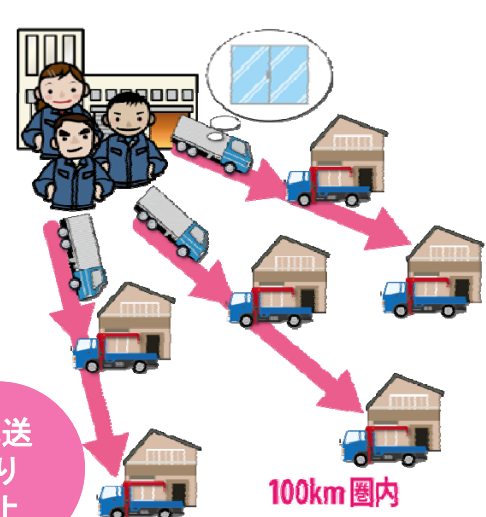


出典)平成27年12月ヒアリング調査(大宮国道事務所調べ)

桶川北本IC～白岡菖蒲IC 開通前



桶川北本IC～白岡菖蒲IC 開通後

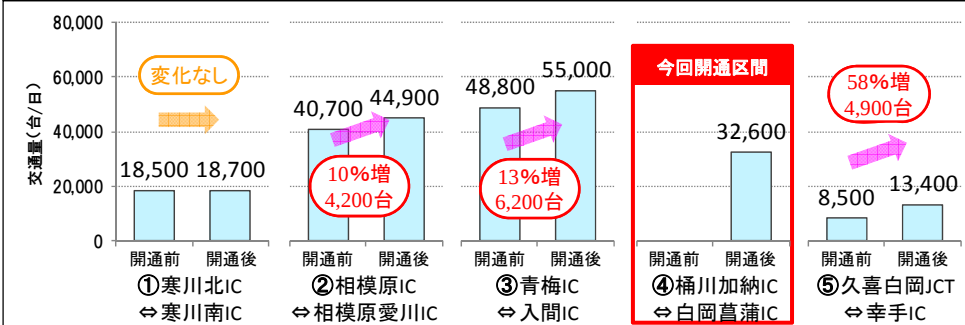


1日の標準配送
範囲が広がり
生産性が向上

参考① 開通後の交通状況

- 東名高速では、圏央道の迂回機能によって圏央道内側の交通量が減少（-5,500台/日）
今回開通区間に並行する外環道では、圏央道への転換により交通量が減少（-6,300台/日）
- 今回開通区間（桶川加納IC～白岡菰蒲IC）の交通量は、平均32,600台/日
- これまでに開通している圏央道の関越道～中央道間、中央道～東名高速間の交通量がそれぞれ約1割増加

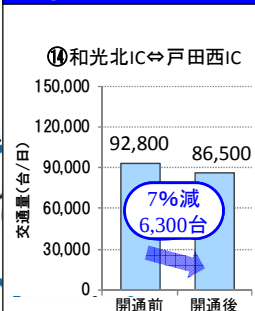
①～⑤ 圏央道



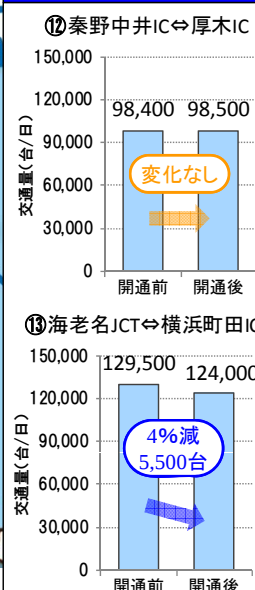
⑥～⑦ 東北道



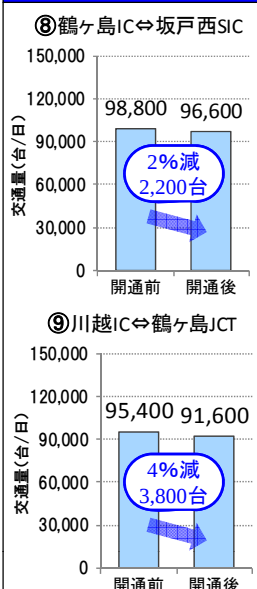
⑭ 東京外環道



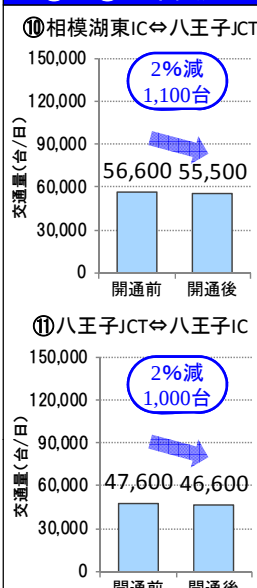
⑫～⑬ 東名高速



⑧～⑨ 関越道



⑩～⑪ 中央道



出典) NEXCOデータ 開通前: 平成27年10月1日(木)～10月30日(金)の日交通量の平均値
 開通後: 平成27年11月1日(日)～11月15日(日)の日交通量の平均値

※東名高速の集中工事期間が平成27年11月16日から11月26日のため、左記期間で算出。

圏央道開通区間概要

●首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、首都圏の道路交通の円滑化、沿線都市間の連絡強化等を目的とした、都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている総延長約300kmの環状の自動車専用道路です。平成27年10月31日（土）、^{おけがわきたもと}桶川北本IC～^{しらおかしょうぶ}白岡菫蒲IC間、延長約10.8kmが開通したことにより、圏央道埼玉県区間は全線開通となりました。圏央道埼玉県区間は昭和60年度、都県境～関越道間の事業化に始まり、約30年の年月を経て全線開通を迎えたことになります。今回の開通により、圏央道は、現在までに約241kmが開通しています。

●今回開通区間の概要

路 線 名：国道468号首都圏中央連絡自動車道（圏央道）

○開 通 区 間：^{おけがわきたもと}桶川北本IC（埼玉県桶川市川田谷）～^{しらおかしょうぶ}白岡菫蒲IC（埼玉県久喜市菫蒲町上大崎）

○開 通 日：平成27年10月31日（土）15時

○延 長：10.8km

○車 線 数：4車線

^{くしし}久喜市菫蒲町上大崎

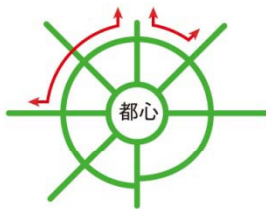
○開 通 IC：^{おけがわかのう}桶川加納IC

○開 通 PA：^{しらぶ}菫蒲PA

環状道路の4つの役割

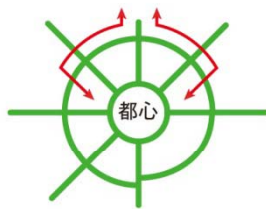
交通の流れをスムーズに!

1 都心を通過するだけのクルマを減らして渋滞緩和へ。



通過交通の都心流入を抑制します。

2 郊外からいろいろなルートで都心へ。渋滞も緩和へ。



郊外から都心への交通を分散導入します。

3 地域間の移動をスムーズに。



周辺地域の移動が直接できます。

4 災害時などの代替えの道、確保へ。



災害や事故などで一部区間の不通があっても速やかに移動できます。

■今回開通区間の位置図

